

横浜国際プールの利活用検討について

1 趣旨

横浜国際プールについては、施設の老朽化により、様々な設備機器等の更新の機会を迎えていることや、令和3年度の包括外部監査において、施設の運用方法に関する意見があったこと等から、主にメインアリーナの利活用について検討を続けてきました。
令和4年度の検討経過及び今年度の取組等についてご報告いたします。

2 検討着手の背景（令和4年第3回市会定例会 市民・文化観光・消防委員会説明内容）

(1) 施設更新の課題等

ア 中央監視装置、プール設備、空調等が更新時期を迎える等、施設の老朽化に伴う長寿命化対策

イ 脱炭素社会における施設全体の省エネルギー化等、効率的な施設維持管理の要請

ウ 令和7年度の特定天井脱落対策工事による長期休館（約1年）

(2) 令和3年度包括外部監査での意見

「メインアリーナの夏季をプール、冬季を体育館とする運営方法（床転換）について、その転換作業に係る費用や期間の経済性の点から課題があり、通年プールか通年体育館への1本化を検討すべき。」

(3) 「横浜市の持続的な発展に向けた財政ビジョン」をふまえた運営

市民生活や経済活動を支える公共施設の機能・サービスを持続的なものとしていくためには、既存の施設を維持管理し続けるだけではなく、施設の規模や数量、質、保全更新コスト等を将来の人口や財政の規模に見合った水準に「適正化」していくことが不可欠な状況です。（「横浜市の持続的な発展に向けた財政ビジョン」より抜粋）

3 サウンディング調査実施結果

(1) 実施理由

国際プールにおける諸課題の解決や、今後の利活用の方向性を検討するにあたり、民間事業者の創意工夫やノウハウを参考にしながら検討を進めるため、サウンディング調査を実施しました。

(2) 結果概要

ア 期間

令和4年9月15日から10月31日まで

イ 参加者

2者

ウ 結果概要（詳細は別紙参照）

項目	提案内容	
	A社	B社
方向性	・床転換なしの通年スポーツフロア	・現行の床転換を継続
施設改修	・スポーツフロア化の改修 ・スポーツフロア化に伴う空調改修	・プールでの国際大会や国内主要大会の誘致のため、現行設備（照明設備、競技用備品、計測機器、電光掲示板等）の更新
管理運営サービス	・床転換費用や床材修繕費の削減、メインプール廃止による光熱水費の削減などトータルで維持管理費用の削減が可能 ・床転換時に発生する休館期間における収入の増加	・床転換費用削減については継続して模索 ・営業時間の見直し（短縮） ・施設利用料の増額 } 収益性を高めるために必要
本市施策への反映・地域貢献	・「横浜市中期計画 2022～2025（素案）」や「第3期横浜市スポーツ推進計画」にある賑わいづくりに向け、北部地域におけるスポーツによる地域活性化が可能な施設となりえる	・スポーツ振興事業全般 ・健康増進事業全般 ・市内中学校や高校の部活動を実施 ・市内小学校の水泳授業を実施

4 今年度の取組

(1) サウンディング調査の実施

中期計画に掲げる基本戦略「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」の実現に寄与する施設にするために、これまでの検討結果を踏まえ、

- ・メインアリーナを中心とした施設のあり方について
- ・緑地部分も含めた敷地全体の活用について
- ・最寄り駅である北山田駅周辺との関係性について

といった観点から、幅広い意見を求めるため、サウンディング調査を実施し、子育て世代が多く住む都筑区を中心とした北部エリアにふさわしい大規模スポーツ施設の在り方を検討します。

(2) 基本計画（案）の策定

サウンディング調査の結果等を踏まえ、国際プールの利活用方針を整理した基本計画（案）を策定します。

なお、基本計画（案）を取りまとめた後、市民意見募集を行います。

5 今後のスケジュール（予定）

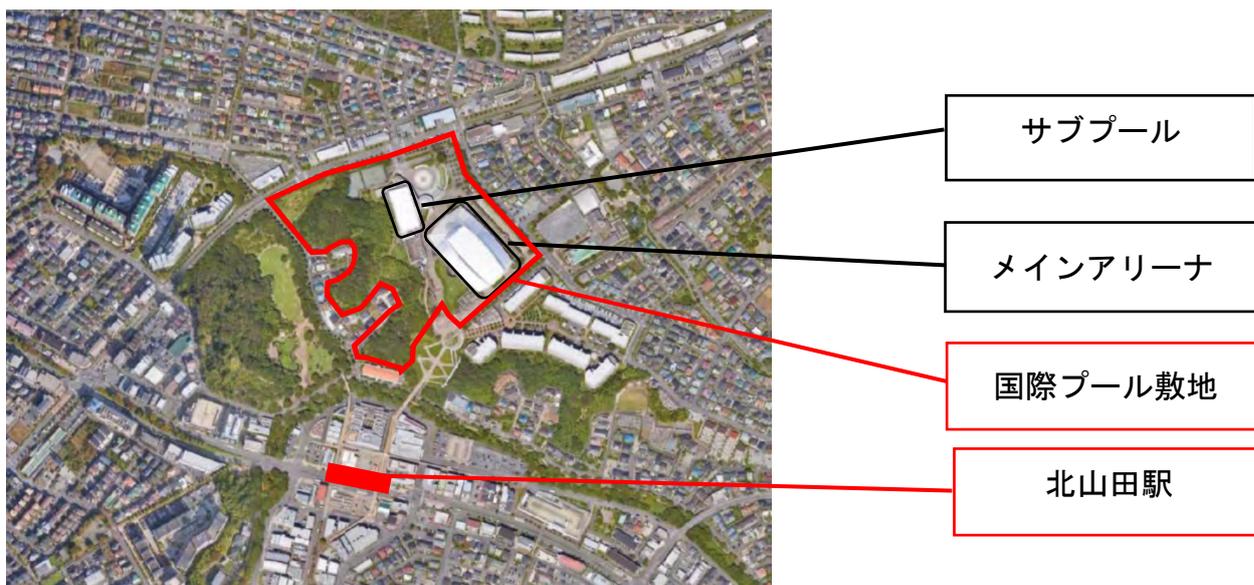
- 7～9月頃 サウンディング調査
- 9月～ 基本計画（案）の策定作業
- 1月 基本計画（案）市民意見募集
- 3月 基本計画確定

【参考】

(1) 施設概要

	施設概要
名称/所在地	横浜国際プール/都筑区北山田七丁目3-1
供用開始日	平成10年7月4日
敷地面積/延床面積	75,844.670㎡/23,385.980㎡
構造/階層	SRC造 地上3階 地下2階
施設内容	メインアリーナ（夏季:メインプール・ダイビングプール、冬季:スポーツフロア）、サブプール、サブアリーナ、多目的ホール、会議室、多目的コート、トレーニングルーム
運営	横浜市スポーツ協会・コナミスポーツ・トーリツグループ（指定管理）

(2) 国際プール周辺図



サウンディング調査結果

項目	提案内容	
	【A社】	【B社】
方向性	<ul style="list-style-type: none"> 床転換なしの通年スポーツフロアとする 	<ul style="list-style-type: none"> 床転換を継続
施設改修	<ul style="list-style-type: none"> メインプールを廃止し、スポーツフロア化 スポーツフロア化に伴う空調改修 スポーツフロアについて、プロスポーツのレギュレーションに対応した施設改修 等 	<ul style="list-style-type: none"> プールでの国際大会や国内主要大会の誘致のため、現行設備（照明設備、競技用備品、計測機器、電光掲示板等）の更新が必要 プール運用の幅を広げるためのメインプールの横幅を短水路仕様に変更 等
事業方式	<ul style="list-style-type: none"> 民間事業者のノウハウや技術を活用できるPFI事業のR0方式が最適 より市民に活用される施設とするために一定程度の市負担額は必要 	<ul style="list-style-type: none"> 従来方式（公共発注、指定管理）、PFI方式どちらでも可能 施設整備費（改修費）については、従来方式・PFI方式どちらにおいても横浜市の負担が必要
スケジュール	<p>改修期間：約24ヵ月 （現段階の検討によるもの）</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年までに実施予定の特定天井改修工事とメインプールの改修を同時期に行うことで工期短縮を図り、営業休止期間を最小限にすることを提案 	<p>改修期間：提案なし</p>
管理運営サービス	<ul style="list-style-type: none"> 通年のスポーツフロアとするための設備改修は必要だが、床転換費用や床材修繕費の削減、メインプール廃止による光熱水費の削減など、トータルで維持管理費用の削減が可能 床転換時に発生する休館期間における収入の増加が見込まれる あらゆるプロスポーツのレギュレーションに対応させることにより、様々なプロスポーツの試合が開催可能 	<ul style="list-style-type: none"> 床転換費用の削減については継続して模索 営業時間の見直しや施設利用料の増額は収益性を高める上で必要 受付機能の集約、キャッシュレス化による人件費削減
反映・地域貢献 本市施策への	<ul style="list-style-type: none"> 「横浜市中期計画2022～2025（素案）」や「第3期横浜市スポーツ推進計画」にある賑わいづくりに向け、北部地域におけるスポーツによる地域活性化が可能な施設となりえる 学校部活動の地域移行への貢献 市内建設会社のJV参画による、維持管理、運営の一部についての市内中小企業の活用が 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ振興事業全般（スポーツ実施率向上、子どもの体力向上など） 健康増進事業全般（健康寿命延伸、メタボ予防、フレイル予防、介護予防など） 市内中学校や高校の部活動を横浜国際プールで実施 市内小学校の水泳授業を横浜国際プールで実施

	<p>可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なプロスポーツの試合開催により地域の賑わいを創出することが可能 ・広大なスペースを有効活用することで、大規模な体験型屋内スポーツイベントなどを実施 ・近隣小中学校の児童・生徒を対象としたSDGs啓発事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃や点検業務の地元企業の活用、また、運営においても地元企業や団体と連携した施設におけるイベント開催での連携等が可能 ・地元雇用の推進 ・地域住民向けに着衣水泳体験会などの開催。 ・市内プロスポーツチーム（横浜スポーツパートナーズ）と協働 等
--	---	---